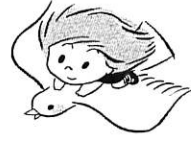


大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

「一人ひとりの気持ちを大事にしたら戦争はなくなる」

語り部から学ぶ「わたしの戦争体験」



「勝つてくると勇ましく」の歌を歌い、赤紙、はちまき、千人針などを見せる綾部先生

10月21日、たかつガーデンにて女性部青年部学習会「わたしの戦争体験」が行われ、戦時中に幼少期を旧満州で過ごされた、綾部多美先生のお話を聞きました。綾部先生は元中津養護学校で勤務され、府障教の執行委員を長年務められました。現在は地元の小学校などで「戦争の語り部」として活躍されています。小学生も含めて28人の参加がありました。

戦争のお話ということで難しく、暗い話になるかと思うと、1925年ご両親が生活のために満州に渡り、というところで早速素敵な紳士と綺麗な着物を着た二人のペープサートの人形が登場。続いてお兄さん、お姉さんたちが次々と生まれ、綾部先生も含めて10人の子どもの人形が並べられて、和やかな雰囲気になりました。そして子どもたちに問いかけられます。「どうしてこんなにたくさん兄妹がいるのやろね」その答えは戦争をすると人がたくさん

必要だから、つまり国の方針だったときくと、生活の中に戦争が入り込んでくる恐ろしさが突き刺さってきました。お話の内容は満州事変、盧溝橋事件、日中戦争から太平洋戦争(当時は支那事変)へと難しくなっていますが、ご家族や実体験を交えてのお話にぐいぐい惹きつけられていきます。お父さまは会社を経営し、中国人との信頼関係を大切にしておられました。1945年8月ソ連兵が攻め込み、お母さまが入院された病院に一家で避難したときは何度も命の危険にさらされましたが、自宅でお手伝いをしていた中国の方に食料を運んでもらって過すことができました。自宅には以前住んでいた中国人が生活していましたが2階を使うことを許され、戻ることができました。

参加者の感想

- 自分でも平和について、せんそうのれきしについて、もう一度考えてみようと思います。かぞくのこと、どんなにしんどいところでもみかたになってくれた人たちがいたことなどが、とてもいんしょうにのこりました。
- 常に命の危険と隣り合わせの生活の恐ろしさ、人が簡単に殺されてしまう恐ろしさ、(2番目のお兄さんが)中耳炎でなくなってしまう悲しさ…戦争は日々の生活のみこんでしまう恐ろしいものだ改めて感じました。
- お母さまの子どもたちを守る強い意志、すごいと思いました。大家族での引揚げは本当に大変だったと思います。今、ひたひたとしのびよる戦争への道、なんとしても食い止めなければ、と思いました。
- 現地の方たちとの交流のおかげで生きて帰ってこられた事実は、身近な人を大切にすることにつながり、話を聞く小学生にとっても学びが大きいと感じた。「新しい戦前」になってきている現代において、このように学んだことを周りにどのように発信し、平和を取り戻していくかが今後の課題になってくると思う。
- 教育の影響は大きいと思うので、正しい知識を得て、未来ある子どもたちに伝えていきたいと思う。

1946年9月北奉天駅から無蓋貨車で丸一日、収容所で1か月、引揚船で魚雷を避けながらの3日間を経てやっと博多港に着くと、叔父さんが持つてきてくれた「おにぎり」の米粒が真珠のように光って見えたそうです。終戦後1年2か月も帰国できなかったのは、日本が棄民政策を取り、満州にいた日本人は帰国する必要なし、ときどき最近明らかになりました。お母さまは満州での20年間の出来事を「私が見た戦争と平和」という手記に書き残され、綾部先生はその手記を見て、戦争の真実を後世に伝えなければと思われたそうです。質疑応答では小学生からも積極的に質問がありました。「なんで戦争やるの？」という素直な質問に綾部先生は「よその国がほしくなるから。一人ひとりの気持ちを大事にしたら戦争はなくなる」と答えられました。今、複雑な国際社会の中で、我々大人はこの質問に真剣に向き合い、平和について考えていかなければならないと思いました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記部の たすじゅ

「これは、わたしが小さい時に、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です」。この書き出しで始まる「こんぎつね」は、小学4年の国語教科書に載っている。私も小学生の時に学んでいると思うが記憶にない。文章の読み取りができず、国語が嫌いだったからか・・・。

「こんぎつね」の作者は、新美南吉。彼は、「こんぎつね」を18歳で発表している。その創作過程に関しては、様々な研究がある。この物語は、彼が幼少のころに聞かされた口伝をもとにして書かれたらしい。また、彼は幼くして母を亡くしている。それも「こんぎつね」創作に影響を与えているようだ。

さて、この数年、教科書から文学教材が減っていると指摘されている。「なぜ、文学を学ぶのか?」との設問が学校教育で成立しにくくなっている。

その背景には、学力指導要領を支えるPISA学力調査の「能力観」がある。この「能力観」は、高養分をあげる人とならうでない人の比較で、その要素を取りだし、それを「コンピテンス」として「求める人材像」をモデル化している。この「能力観」において国語で求められるのは、わかりやすく表現すれば「ビジネス現代国語」である。

このままでは、国語から「文学を味わう」授業が消滅しかねない。これは一大事だ! 「「こんぎつね」を忘れているお前が偉そうなこと言え」と批判を受けつつも、人生経験の中で、やはり文学作品は子どもの学習に必要なと考えられるようになった。

文学作品を読み、人間の本质について考え、原始的な感情がわき起こる瞬間を経験することは、人生を支える力になると思う。(久)

長時間過密労働解消のための実効ある措置を

教職員増、寄宿舎指導員の採用選考再開、栄養教諭の負担軽減、 出産・子育て等の制度の拡充、学校管理費の確保等を訴え

大障教専門部交渉

7月26日、大障教は専門部交渉を実施しました。6専門部20人が参加し、各専門部が重点要求について、府教委の見解をただし、勤務労働条件の改善を求めました。

◇寄宿舎教員部

正規職員の平均年齢55歳、臨時的任用が約4割の寄宿舎教員の実態を示し、採用選考を再開して正規職員配置等による教職員の負担軽減を求めました。府教委は、寄宿舎教員の専門性の必要性は認めつつ、「寄宿舎指導員の採用については、今後の寄宿舎の運営方針を踏まえ、その可否を判断したい」と従来の回答を



寄宿舎教員部 平野さん

行いました。また、寄宿舎教員の代替について、北視覚支援の病休代替が非常勤職員で配置（非常勤職員は宿直勤務ができない）されているため、最低基準の12人体制を下回っているもとで、労働基準法違反となる週2回宿直勤務が生じる実態を訴え、常勤職員の配置を求めました。府教委は、「日常的な業務の性質も考

◇事務職員部

障害のある教職員への合理的配慮と大規模校及び寄宿舎設置校などの繁忙校に対して、個別の事情を校長からヒヤリングして対応すること、また学校環境の水



事務職員部 古川さん

準低下を招かないようにするために必要な光熱水費予算等、学校管理費を確保することに、教職員の健康上の負担の軽減をはかること、各校の相談にも対応することを求めました。

「障がいのある教職員に対する『合理的配慮』に関して適切に対応する、事務職員の配置については各校の実情を考慮しながら配置を

◇栄養教員部



栄養教員部 久保さん

栄養教諭・栄養職員は1校1人配置のため、児童生徒に安全安心の給食対応を行えるよう妊婦負担軽減制度の改善と病休等の代替者を速やかに

確保・配置できるよう講師登録制度の活用を求めました。府教委は、「今後とも必要な代替確保に努める」「他市・他県の登録制度を研究させてもらう」と述べるとどまり

ました。また、業務負担軽減のため、給食調理業務委託にかかわる仕様書のよりよい改訂、特に引継ぎについて、実態をもとに改善を求めました。



栄養教員部 原さん

【次号に続く】

みんなで行こう！



第23回全国障害児学級・学校 学習交流集会in愛知

2024年1月6日(土)～7日(日)

6日午後 全体会 (オンライン併用)

記念講演 竹沢清さん (元愛知県ろう学校教員)

「子どもの悩み・ねがいに出会って、私たちは教師になっていく
- 実践と運動を通して語る」

7日午前 てんこ盛講座 (教科の実践、性教育、発達など10講座)

文化バザール (手話ボーカー、パネルシアター、手品などの実技講座)

7日午後 旬の実践分科会 (障害種別、青年期、寄宿舎など16分科会)

基礎講座

※詳しくは、案内ビラ、分会または大障教までお問合せください。

昨年度、クラスの児童の対応で行き詰まっていたタイミングで、この学習交流集会に参加しました。それぞれの先生方の実践を聞くうちに、思い悩んでいるのは自分だけではないんだなと思うことができました。また、1人ひとりの子どもたちに寄り添い、丁寧に実践されている様子を聞いたことで、新たな視点に気づいたり、私にもまだできることがあるのではないかと、早く担任する子どもたちに会いたいな～と明日からの頑張る力をももらえました。自分にとっても、関わる子どもたちにとってもきっといい時間になると思います(〇) (摂津支援分会 高橋恵里)

